

平成 29 年度第 1 回教育研修会報告

日	程	平成 29 年 8 月 1 日（火）～4 日（金）
会	場	東京警察病院看護専門学校
プログラム	1 日	基調講演及びグループワーク
	2、3 日	グループワーク
	4 日	発表（ポスター及び模擬授業）及び講師からの講評

平成 29 年度第 1 回教育研修会は、応募者 74 名、指導教員 12 名のご協力を得て開催致しました。

今年度も会場の東京警察病院看護専門学校の教職員の皆様には多大なご協力を頂きましたこと深く感謝申し上げます。

また、教育委員会委員はじめ、グループ指導協力を頂きました皆様、ありがとうございました。

この研修の目的は「教育の本質」を再認識し、「看護基礎教育課程」の理解、「学習指導案作成・模擬授業・ポスター発表」を通し、参加者自らの『教育実践能力の強化』です。

この研修の初回から 8 年間お世話になっております茨城大学教育学部准教授新井先生からの基調講演『アクティブラーニング時代の看護学校の授業づくり』に始まり、日常生活援助技術单元「清潔」「食事」「排泄」「活動」を 12 のグループ編成によるグループワーク、その成果の発表（ポスター及び模擬授業）と、かなりハードな研修ではあったと言えますが、グループワーク時の表情や、成果発表・アンケート結果から、参加者の満足感が見て取れました。

今年度の参加者は 12 グループのうち 3 つのグループ（17 名）が専任教員養成講習会受講済 3 年未満の方々に、その他の皆様は未受講者でした。

< 池西会長挨拶 >

看護教員の教育実践能力強化が求められています。本会も新任教員が自信をもって日々の教育活動が行えるように、平成 22 年度より学習指導案作成の実践的研修を行っています。本年度も 4 日間の基調講演とグループワークによる学修成果（看護基礎教育の教育課程の理解と学生にとって分かる学習指導案の作成および仲間づくり）を期しております。



< 基調講演 >

テーマ『アクティブラーニング時代の看護学校の授業づくり』

講師；新井英靖氏（茨城大学教育学部准教授）



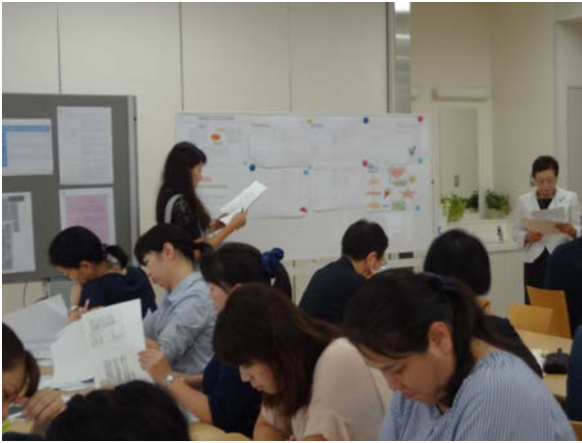
概要；学生観・教材観・指導観を考えるための前提（現代の学生像と学生の想像力を育てるネタ探し）と授業づくりのステップを5段階に分け、具体例から説明された。

- 1 ステップ「授業のエッセンスと内容の整理」は、基礎看護学で教える（例、清潔・活動・排泄など）意義と授業のねらいと内容である。
- 2 ステップ「単元計画の立案（ドラマ仕立てのストーリーを考える）」は、教えたい内容を学生の主体的学びに変換するため学習者のニーズを捉え、具体的な学習活動や事例を考えるである。基礎看護学の体系的理解（基礎から応用）と実践的課題の理解（将来必要な力から課題を考える）から状況の中で考える。
- 3 ステップ「学問世界に誘いこむ「導入」の工夫」は、学生の経験をつかみ学習状況に即した学問への導入（医療現場の生を題材に、文学作品から）を行うである。
- 4 ステップ「展開からまとめへの流れ」は、学生の思考を助ける問いをつなぐ授業計画と板書と補足資料の活用し授業を行い、授業評価するである。問いから本題へ、課題解決のための発問（知識を問う・知識を活用し表現させる）
- 5 ステップ「すべての学生の理解につながる指導技術と指導上の留意点」は、集団思考で学びを深めるために手立てをもって学生を交流させるである。（考えるヒントと自力解決の調整、机間指導の留意点）

新井講師は、「授業づくりの5ステップ」を沢山の事例から、現代学生の思考特性のつかみ方、問いの組み立て方、驚きをもった授業のスタートなど、授業への導入の準備の重要性を力説されておりました。

普段からの不断の努力が授業づくりのネタつかみにつながると、改めて肝に銘じた基調講演でした。

（教育委員 望月 章子）



<新井英靖講師からの講評—模擬授業をとおして—>



《講評の概要》

【活動・休息 —体位変換の意義と技術—】

意義は見えないが実践を方向づける大切なもの

他の単元も同様ですが、最初は意義から行うというように共通しています。意義を授業で採り上げる際のポイントとは何か。

意義は見えにくいものであるため、どうやって実感をもってもらうのか、考えないと難しいです。実際に患者になってみなければ本当のところは分かりません。

しかし、看護師はたくさんの患者さんたちを看てきているのでわかることがあります。

学生の場合は授業において、例えば20分間体を動かさないという体験をした自分をもう一人の自分がみて、自分の気持ちをモニターする、ということを行います。現実場面を再現することはできないし、患者のレベルで動けないという状況は再現できません。一切動かないという、もう1人の自分「動かない自分」を作って、それぞれの図を重ね合わせる「ごっこ遊び」です。幼稚っぽいですが、「ごっこ」だからわかることもあります。「ごっこ」として動かない自分をモニターしたら「動かなくなるのは嫌」という感情が学生に芽生えます。そして自分も嫌なので患者さんも嫌だろうと考えられるようになります。しかし現実場面と必ず一致するわけではありません。そこで寝返りしないとどうなるかを教えるために褥瘡の写真を見せ、血行不良になる状態としてイメージさせることができます。このようなプロセスを

辿りながら、自分を客観的にみているもう一人の自分が育ってくると大切なこと（「こだわり」や「哲学」）が生まれてきます。体位変換は何故必要か、ここにこだわって授業をしないと患者の思いが分かりません。その思いが看護観に繋がってきます。看護技術は、マニュアル通りにできればいいというものではありません。哲学的であり、アートです。体験したことを経験化していくプロセスが「学び」になります。

学生の特徴と授業づくり

学生に主体的な学びをさせるために、20分動かないという体験をしてその感想を書いてくるという課題をだすことはよく行われます。学生はプライベートな発言は結構できるが、文章化することが上手くできない学生がいます。単発の発言を放言するだけで終わってしまう学生もいます。

教員は「つなぐ」ことが課題です。

実際に体験したことを言語化するプロセスにおいて、体験には感覚や感情が含まれ、物理的なことだけでないイメージの集まりとなります。言語には、話し言葉と書き言葉があるが、人間が書き言葉を習得するには後天的な教育が必要であり、書き言葉には認識が伴います。

実際に体験したことを学生は、感覚や感情を含んだ学びとして「骨のところが痛い」「髪がかゆいのにはかけない」「動かなくなるかと思った」などと言語化します。感想を口頭で言わせるのと書かせるのでは教育効果が異なります。「発言したもので一番大切だと思うことを書いてください」というような誘導が大切であり、ことばが出てこない学生には「どんな気持ち？どんな感覚があった？」というように働きかけ、感想が出るまで少し待ちます。ことばにしてから書くようにするとよい。教員はどこまで誘導するのか、どのように誘導するのか、【問いの視点】を持つ事が重要です。実践を方向付けするためのプロセスには、経験、リフレクション、想像力が必要です。感覚や感情を通過した認識だから「意義」を実感することができるのです。

【清潔 — 清潔の意義と看護 —】

問いの方法を考える

清潔の意義を「行動化」する授業

意義は一般化できるものです（マクロ）。しかし、この中には個別性、多様性もあります（ミクロ）。清潔援助はこのように行うという看護師としての一般的役割というマクロの視点と、どこから洗うのかという援助の個別的实际のミクロの視点があります。

問い方として、一般化できる問いの答えは学生から出にくいです。「どうして体をきれいにするの？」という曖昧で身近な聞き方が話し合いを促します。そして「いろんな人がいますよね」で終わるのではなく、個別性があるというようにまとめることが大切です。

「マクロ」と「ミクロ」は授業をとおしてどのように融合できるか？

授業者がマクロの視点とミクロの視点のどちらを問うているのか、その性質の違いを自覚していることが大切であり、問いの性質によって出てくる意見の性質も変わってきます。

「お風呂に入れないとどうなる？」という問いに対して「嫌だ」という学生もいれば「大丈夫」という学生もおり、一般化できないことがあります。両方の意見を混ぜないと教えられません。

ここに意義を教える難しさがあります。例えば「朝の清潔行動として何をするか」という問いに「顔を洗う」「髭を剃る」「着替える」「髪をセットする」という意見は予測されます。

予測しないような「化粧をする」という意見が出てきた場合、これは清潔行動なのか議論をすると授業が面白くなります。

意義には、身体的・心理的・社会的側面があります。清潔が保たれないことで身体的に悪影響が生じます。しかし身体的側面だけでなく、看護師としてのもの見かたとして、心理・社会的側面は大切な部分です。授業で学生に問い、その答えをそれぞれの側面に分類していきます。

分類することでミクロの集合が意識できるようになります。これが、原理原則、倫理的配慮を踏まえた援助の理解に繋がっていきます。

【 排泄 —排泄の意義—】

対話をとおして一般化する

「意義」を深く理解するための「対話」(問答)

道徳的に教えるのか、倫理として教えるのか。似たような言葉であるが、意味合いが違います。【道徳：人が生きる道の徳。人としてこういう人は徳が高いとして決まっている。儒教、キリスト教、仏教などそれぞれの宗教において徳の認識は異なる。日本では義務教育において宗教教育をしてはいけないので道徳を教えることが難しい。

倫理：「何故人のものを盗んではいけないのか」というような、もともと答えのないものを話し合いの中で見つけていくもの】

21世紀は良くも悪くも徳が崩壊しています。これは学生観に繋がっています。

社会性がない、ルールが守れないということは“徳”の部分です。これは個別性、多様性を大切にしようとする時代背景に起因します。このような学生に「正しい考え方は？」と問う際、複雑な感情を大切にし、奥が深いものであるということを伝えるために「発問」をして、グループワークをすることで「わかる」になります。

また自明のことを敢えて問うことで、学生は重要なこと(意義)を自覚(気づく)することができます。

ソクラテスの対話法(問答法)の問答の原則に、【①相手に話させる(安心できる雰囲気)

②「正解」を留保する③発見(気づき)の面白さを実感できるように対話する】があります。「食べたものはどこに行くか？」という曖昧な問いは、意義や価値を問うときには答えが多様にできるように、問答法の原則を用いていきます。教師は正解を1つに絞るのではなく、学生から出た意見を受けて、「平均」と「個人差」、あるいは「生物(生理)」と「個別性」など、一般的なのか否か、マクロかミクロか整理していきます。

一般的な定義を教えることも必要であるため、例えば「排泄のイメージは？」という問いに「外に漏れ出す」という気づきから定義を伝えていくのもよいです。

学生は話す際に一般用語を用いるが、教員は「尿」「便」というように、看護の一般的な用語に置き換えて伝えることも必要です。

対話(問答)の中で表現がでてくる。定義と原則だけでは「生活」と繋がりにくいです。

例えば学生が「この前トイレに行ったらトイレットペーパーがなくて・・・」と表現します。「表現」とは、感じた事を認識的に整理して外形化したものです。

教員は「それは恥ずかしかったね」と羞恥心の理解につなげます。

さらに「もしも・・・」の問いの中で考える。そういうことは今実際ないから考えないということにはなりません。問いは虚構を生み出すことができます。

【 食事 - Let's 食ニケーション - 】

実践を創造する力

看護実践と「想像力」

「想像力」に国語的学力がどのくらい関係するか？イメージの形成と発話が必要になるため、感性でキャッチできる学生もいるが、書く力が弱いと流れとしてとらえる力も弱いです。

「想像力」は、①イメージを述べる一単発の映像（無人島）を感覚的に思い浮かべ言葉にする。②意見を分類する一映像の結びつきの形成（群島化する）。③どのように看護するか一「映画」としてのまとめ（〇〇諸島）が含まれます。

例えば①として「アヒージョ」は知らないから異なるイメージが生まれる（感覚からのスタート）。②として付箋を使って分類することで、共通項があがりそうだと分かります。結び付け方は自由であるが、「タイトル」を考えることで結びつきを強制することができます。

想像力がどのように広がるのか？一本杉ではなく、熱帯雨林として捉えるためには教員の思いが伝えられるような写真は有効で、それを見て感想を書く作業をして、みんなの考えを混ぜ合わせることで、全体像（熱帯雨林）が見えてきます。芽の伸び方のように、自由に伸びるが他と結びつくように一見バラバラのように見える活動（ワーク）となるが、大きなテーマは共通しています。

おおよそ近似した結びつきが生成される一方で、学生が生み出した概念も尊重します。

これが学生の看護観に繋がっていきます。【『私』は熱帯雨林の一部であり、近くの『木』と結びつきながら新しい『私（看護観）』を生成し続けている】というようになることが、本当の意義の学習です。

《まとめ》

この授業にどのような意味があるのか、今回作成した授業案をみて考えてみて下さい。

見えない意義はどのように教えるのか、体験したことをリフレクションするにはどうすれば良いのか。今回作成したような詳細の授業案は毎回作成できないかもしれません。

しかし今回のような授業案の作成は、教員の教育力向上につながります。

授業研究として取り組んでいくことを提案します。

<修了証の授与>

山田副会長から代表の方に修了証が授与されました。



<山田副会長挨拶>

この研修会は希望者の多い研修会です。

資質の高い学生を育てたいと思う願いは皆共通しており、そのためにも私達看護教員の教育実践能力を向上させることが大切です。

各校には、諸事情があると思いますが、この研修を今後、看護教員養成講習会の受講に繋げて頂きたい。

新井講師の基調講演を聴いた直後は、やや理解でき難い箇所もあったのではないかと推測いたしますが、4日間研修するなかで理解できたことでしょう。

この研修が次のステップアップにして頂くことを期待致します。

(教育委員 梅澤 明美)